

令和7年度 第3回南魚沼市観光戦略策定委員会 議事録（要旨）

とき：令和7年5月26日（月）9：30～11：30

ところ：南魚沼市図書館 多目的室

1 開会

進行：大野観光交流主幹

2 挨拶（金子委員長）

米の高騰が続いているが長岡市で百姓一揆が開催されるなど、新潟の米が認知されることが多い。私はそのたびに嬉しくなる。観光戦略を練り、観光だけでなく、次世代型の戦略を作っていければいいと思っている。

【アイスブレイク】

伊藤委員

①6月から市の移住定住関係で若者向けの地域ディレクター養成講座を実施することになった。計3回合宿、県外の学生向け。

②本（「移動と階級」）を出版した。そもそも人はなぜ移動するのかというテーマ。公共交通や観光の面からも機会があればご覧いただきたい。

中島委員

文化作品の観光ガイドの状況としては、コロナ前は大型バスがほとんどだったが、現在はほとんど見ない。旅行の在り方が変わってきていると感じている。お客さんは文化や郷土に触れたいと思っているので、地域がウェルカムでないと対応できない。コツコツとリピーターを育んでいく必要があると感じている。

岡村委員

4月1日で商工会が合併し、支部の人たちと懇談会をする中で観光をする上では行政と観光協会と意見交換をし、連携していかなければならないと思っている。

また、湯沢や十日町、只見線沿線の魚沼から福島を含めた形で広域化していきたい方針。雪国観光圏の取り組みは地域としては実感が湧かない。

千喜良委員

2月の大雪の影響により、関越道が通行止めになり痛手だった。併せて、不要不急の外出を抑えるような報道もあって集客に影響はあった。

先日湯沢に行くと、閑散としている状況。シーズンの集客について、平準化を図らないと観光地としては難しいと感じている。

羽吹副委員長

自社でバスとタクシー事業をしているが、コロナで大型バスを使った団体ツアーが少なくなった。しかし、団体ツアーは減ったが、コロナでバス会社が減り忙しい。この度、6月に新しいバスを導入した。その他、今後高級車両（アルファード）を導入し、個人向けの観光タクシーを始めようと思っている。今冬の湯沢はバブル以上にお客さんが来たといわれている。日本版のライドシェアをやってみようと考えている。

3 議題

(1) 南魚沼市観光戦略策定スケジュールについて（資料1）

事務局廣田から説明

⇒意見なく承認。

(2) タグライン及びロゴの市民投票結果報告について（資料2）

事務局山崎から説明

羽吹副委員長

- ・どのような形で大阪・関西万博でPRするのか

西潟課長

・パビリオン及び6/22の市長登壇の際に発表を予定している。につぼんの宝物事務局とコラボして雪を持ち込む予定。市長としては東京オリンピックの雪辱を果たすPRの場として、リベンジを意気込んでいる。

岡村委員

- ・バッチなどPRするノベルティは考えているのか

事務局山崎

- ・具体的には検討中だが皆様からも意見があればいただきたいと思っている。
⇒承認。

(3) 観光戦略を実行する組織の名称の検討について

候補名：南魚沼市観光戦略推進協議会

⇒候補名の通り承認。

(4) 南魚沼市 観光戦略（素案）について（資料3）

事務局山崎から戦略全体像について説明後、戦略に関連する議論を実施。

【成果指標について】

岡村委員

・宿泊事業者のほとんどは、零細企業・個人事業が多く、高齢化や施設の老朽化が問題としてあり、受入体制が不安。商工会では持続化給付金（1/3 負担）もあったが延命しただけ。申請できていない人もいた。人材確保についても課題があり、若者にその気になってもらえるように人材育成や補助金の整備が必要。昔はウィンターシーズンのみの営業で1年間食べられた。しかし、現在はそうではなく、グリーンシーズンの誘客が大事になっている。宿泊事業者の5年先の状況はわからないというのが現状。

・課題の可視化や方向性の在り方についてはどうか

事務局山崎

・事業者にはアンケート調査を行い、課題を整理する。優先順位を考えて検討していきたい。

南魚沼市観光協会

・地域全体として取り組むべきであり、事業継承も必要と考えている。

千喜良委員

・P. 14 図表 18③宿泊者数の指標について、一定増加で設定しているが受入環境問題のこともあるので、絵にかいた餅にならないようにすべき。

羽吹委員

・P. 14 図表 18 の指標の設定の仕方を教えてほしい。特に宿泊者数は、宿泊施設のキャパシティや稼働率を加味して検討しているのか。また、宿泊の魅力を上げるような戦略を掲げてもいいのではないか。交流人口を増やすような戦略があってもいいと思う。

南魚沼市観光協会 寺口氏

・現在は189件、市全体では11,100人のキャパシティを想定している。

千喜良委員

・季節で営業期間を変更する施設もある。グリーンシーズンは、その半分程度ではないか。

腰越部長

・観光庁も宿泊者数を重視している。理由としては消費額が高いため。単価の高い宿はシーズン全体で8割の入込客があるがそれは投資を進めている。宿泊施設の継続はしてほしいが、事業継承はなかなか現れないのが現状。この状況を抑制するための議論が

大切。この地域の魅力や観光資源を使って、外から事業者が来てもらうことを事務局としては考えていかなければならない。

金子委員長

- ・現場の担い手をいかに取り組んでもらうか。本課題は受け例に限らず全体的な共通課題として認識していかなければならない。

南魚沼市観光協会 寺口氏

- ・P. 14 図表 18 の指標について、弊社のデータと差がある。特に①③
- ②観光消費額は、JR のような交通費を入れると高くなる。
- ③宿泊者数 基準値の 78 万人は 80%稼働だと思われる。

事務局山崎

- ・①③は人流データの数値を採用しているが、基準値の 78 万人は多いと思うので、再度確認する。各施設から四半期ごとに報告してもらっているが、算出が統一していない部分がある。
- ・②算出根拠についての注釈が必要と考える。

腰越部長

- ・③126 万人は多すぎるので、再度検討する。

千喜良委員

- ・スキー場の入込は正しい数を報告できていると思うが、宿泊施設の入込報告はいい加減な部分があるため、正しい数の把握は難しいのでは。地域の宿向けのデータを取る、情報を発信する、2 つを意識してほしい。

【観光人材について】

金子委員長

- ・外部人材の獲得は考えていないわけではないということで、どのような観光を歩んでいくのかという観点が重要。関係人口の獲得が地方創生の王道となっている。地方創生の観点も記載してもいいのでは。商工会や地域との連携があってもいいと考える。

事務局山崎

- ・その点にも触れて記載する。

伊藤委員

KPI 改善の余地ありとして、以下の点を意見する。

- ・事業者の数を記載してもいいのではないか
- ・宿泊単価としてもいいのではないか
- ・満足度は推移に変更がないのであれば、いらないのではないか
- ・認知度はゼッピン雪国宣言の認知度でもいいのではないか

また、市民向けの KPI があってもいいのではないか。ゼッピン雪国宣言を地域全体で実現するための KPI があってもいいのではないか。

- ・リピーターは勝手に来る。新規顧客が全体のパイの増加になるので、新規顧客に焦点を当ててもいいのではないか。

岡村委員

- ・この地域はそんなにリピーターが多くない気がする。20-30 年前はかなり多かった印象。その時の子供世代が来ているのか。
- ・また、リピーターよりも新規に重きを置くことが大事だと考える。

南魚沼市観光協会 寺口氏

- ・来訪者アンケートから、2 回以上の来訪客数は 78.7%、5 回以上に至っては 52.2% と非常に高い数字。しかし、個人店舗への依存が高い方は一定以上いると思っている。

【プロモーション戦略について】

千喜良委員

- ・ゼッピン雪国宣言のプロモーションをどのように考えているか。
- 例えば、グルメマラソンなどの大型イベントでの周知をするなど。情報の収集と整理を推進していくべき。

事務局山崎

- ・イベントも市内の情報をすべて整理できていない。年間イベントを把握したうえでタイミングを合わせて効果的に発信していく。

【その他】

羽吹委員

- ・P.2 図表 1 について、前期 3 年、中期 2 年、後期 5 年の根拠は何かあるのか。

事務局山崎

- ・前期と中期は特に短期間でブラッシュアップしていくことを想定しているため、そのように設定した。